

生活科 2年C組	街探検 ～ぼくらの街の貴志川線～	中西 大
-------------	---------------------	------

1. 単元について

私たちの街、和歌山市には「たま電車」で有名になった貴志川線がある。廃線の危機にあったにも関わらず、今では日本全国や海外にまで知れ渡っている。

子どもたちは、貴志川線で働く人たちや利用客にインタビューすることで、多くの人に乗ってもらうための努力や工夫に気付く。気付きを表現する中で、そんな努力や工夫についての気付きをさらに深める姿を期待している。表現されるものは、電車・駅舎・駅員・利用客の様子、もしくは新しい電車のコンセプトかもしれない。子どもの視点を大切にしながら、自分が通っている小学校の街にあるものに新たな親しみや愛着をもてるような単元を設定した。同時に、公共交通機関のよさや働きに加え、利用客としてのマナーについても学ぶことができる。

2. 単元設定の理由

(1) 本実践の主張点

子どもたちが好きな「たま電車」を有する鉄道会社に関わり、多くの人に乗ってもらえるようにする秘密を探り、思考・表現することで、働いている人の思いや公共交通利用のよさと働きを捉えることができる。

本実践で子どもたちが目標を達成するためには、気付きや考えを自分だけのものにせず、グループや学級全体で共有することが必要だと考える。そのため、個人の気付きをみとり、深めたいことを抽出して表現させたい。表現することで個人の気付きや考えを全体で共有することができる。自分では気付かなかったことや考えられなかったことに触れ、さらに自分の活動に生かそうとする子どもが育つと考えている。

(2) 教科提案とのかかわり

生活科では、活動や体験において五感を通して感じ得た情報をもとに、表現活動を充実させることで、子どもたちの気付きの質を高めようと考えている。表現活動において言語化を図ることに着目し、コミュニケーション能力を高めながら認識力を高めたい。コミュニケーションを支える大きな要因には、学習環境があると考えている。リアルな対象を通して相手と関わられるよう、子どもたちの学びの筋に沿って学習環境を整備したい。

また、以下の3点に重点を置いて本実践を構成している。

①リアルな体験

見学活動の充実・ゲストティーチャー・具体物の充実・考えを表出させた具体物

②表現による人との関わり

言葉、絵、実演などの方法を具体的に示す・発表の型にとらわれない自由な話し合いの時間

“コミュニケーションテーブル”で話し合う・ICT機器の活用

③異質性の認識を生むグループ活動と学習環境

対象を捉える視点を意識した課題別グループ作り・ペア、4人グループでの学習の充実

(3) 問い続け、学び続ける子どもたちをめざすために

働く人の工夫や思い、利用客の思いを、「見る・聞く・考える」という活動に重点を置いて取り組みたい。多くの人から聞き取り、多くのものを見て発見し、じっくり考えて気付きを共有できるよう、「貴志川線の素敵なお客さんはどこかな」「行ってみて楽しかったのはどんなことかな」「観光客がたくさん来る秘密は何か」「お客さんは、どう思っているのかな」などと支援したい。

また、改装していない駅舎や電車が存在することからも、自分たちがこれから関わりを深めようと

目を向けられる要素として扱いたい。働く人の工夫や思いをもとに、気付きを確実なものとしてこれらに当てはめ、表現する対象になると考えている。

3. 単元目標

貴志川線に関わり、働く人や利用客、公共交通などに関心を持ち、見学・体験・インタビューを通して、貴志川線のよさや人の思いに気付き、新たな親しみや愛着をもつことができる。

4. 評価規準

生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
自分が通う小学校のある街に関心を持ち、地域の人や場所、ものに親しみをもって関わる。	地域の人や場所、ものと適切に関わることや、マナーを守って安全に生活することについて考える。	街の人や場所、もの、公共交通の様子について、自分の生活との関わりやよさに気付く。
友だちと協力して街や人々の様子を探ろうとしている。	街探検で聞いたこと、発見や気付き、体験したことについて、自分なりの方法で表現することができる。	

5. 単元計画（全18時間 本時14/18）

- 1 時間目：貴志川線の駅や電車は、どんな様子かな？
- 2 時間目：見学計画を立てよう！
- 3～6 時間目：貴志川線見学・お客さんにインタビューをしよう！（校外学習）
- 7～8 時間目：貴志川線の仕事見学と電車教室（校外学習）
- 9 時間目：「貴志川線の未来をつくる会」の人に聞いてみよう！
- 10～13 時間目：気付いたこと、発見した秘密を教えてね！（表現の準備・製作）
- 14 時間目：働いている人の工夫・お客さんの思い① [本時]
- 15 時間目：働いている人の工夫・お客さんの思い②
- 16 時間目：あったらいいな「〇〇電車」
- 17～18 時間目：みんなが乗る電車だから…

6. 本時について

見学・体験・働く人や利用客へのインタビューなどを通しての気付きを表現し合い、伝え合いながら自分の考えを深めたり、新たな気付きへとつなげたりする時間である。

子どもたちは、見学時に自分の予想と課題をもって出かけるため、自分なりに視点をもつことになる。そして、その視点での自分の気付きを具体物として本時まで表現している。それは、見聞きしたことを言葉で伝える・具体物を見せる・電車や駅舎の再現・絵や写真で示すなど、様々に考えられる。ただし、これらを発表し合うだけでは、ただの発表会になってしまう可能性がある。そこで、子どもたちがそれまでの気付きから比較できるような要素を取り上げ、全員が立場を明確にして話し合えるような場面を設定したいと考えている。例えば、「鉄道会社側の思いと利用者側の思い」「次につくるなら〇〇電車？△△電車？」「ニタマカフェをつくるなら、何駅？」などが考えられる。

また、学びの深まりを考えたとき、友だちの発表を聞いて気付いたことを、働く人や利用客の様子、自分の気付きとつなげられるようにしたい。友だちの気付きのよさに触れたり、自分の考えを更新したりしたことを生かし、更に表現しようとする姿を期待している。